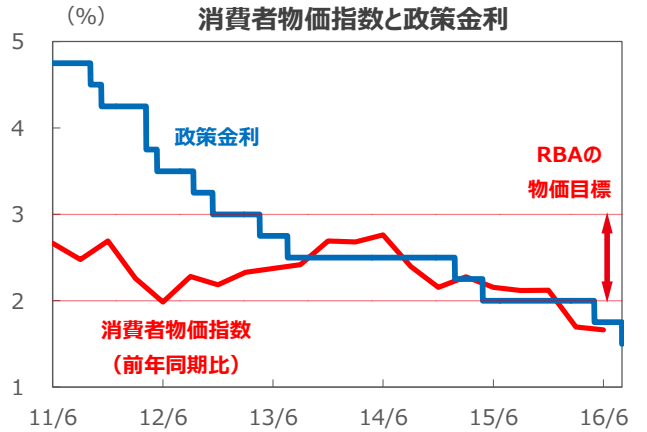


今日のトピック 豪州の金融政策（2016年8月）
豪中銀、政策金利を引き下げ

ポイント1 1.50%へ引き下げ
インフレ率が目標の下限に未達

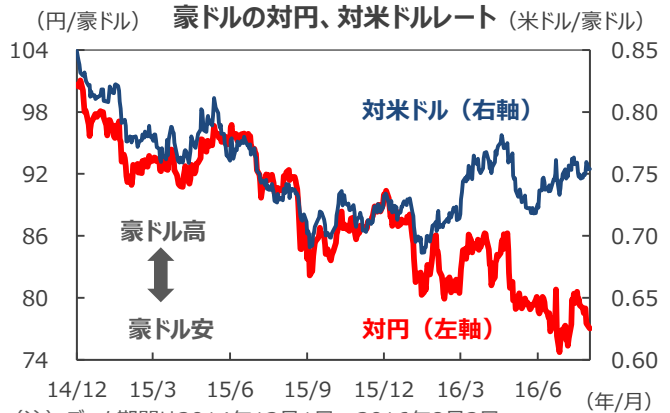
- 豪州準備銀行（RBA）は8月2日に開催した金融政策決定会合で、政策金利を1.75%から1.50%に引き下げることを見事決定しました。ブルームバーグ社の集計によると、25名のエコノミストのうち20名が利下げを予想していました。
- 消費者物価上昇率が、RBAの注視するトリム平均値（異常値をつけた項目を除いた物価指数）を見て、16年1-3月期、4-6月期とも前年同期比+1.7%と、目標の下限である+2.0%を下回ったためと考えられます。



(注) 消費者物価指数は2011年4-6月期～2016年4-6月期。消費者物価指数はトリム平均値。政策金利は2011年6月30日～2016年8月2日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 緩和バイアスが続く見通し
声明文は前回から大きな変化なし

- 先行きの金融政策スタンスについては、今回も特に言及はありませんでした。
- 豪州経済は、拡大基調にあります。米国、中国をはじめとする海外経済に力強さが欠けることもあり、そのペースは緩やかなものにとどまる見込みです。
- このため、インフレ率も当面のところRBAの目標レンジを下回った状態が続くと予想されます。金融政策には、しばらく緩和バイアスがかかると考えられます。



(注) データ期間は2014年12月1日～2016年8月2日。2016年8月2日は日本時間15時30分時点のレート。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 豪ドルの対円相場は底堅い展開へ

- 会合直後の豪ドルは対米ドル、対円ともに下落しましたが、すぐに持ち直しています。
- RBAは緩和バイアスを維持する見通しですが、日銀も強力に緩和策を推進しています。
- 豪日の金融政策の方向性を踏まえると、両国の金利差が急激に縮小する可能性は低いと考えられます。こうした点から見て、豪ドルの対円レートは底堅く推移すると予想されます。

ここもチェック! 2016年7月27日 最近の指標から見る豪州経済（2016年7月）
2016年7月21日 IMFの世界経済見通し（2016年7月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。